

立正大学

古書資料館通信

Vol.8



『画本野山草』

目次

岩瀬志妙寄贈本について (1)	1 頁
蔵書の傾向	1 頁
飯高玄秀	1 頁
玄首日祐	2 頁
火災の痕跡	3 頁
失われた本	3 頁
岩瀬志妙寄贈本 簡易リスト①	4 頁
注	6 頁
古書資料館講座 受講生インタビュー	6 頁
表紙資料紹介	7 頁

立正大学図書館略史（品川キャンパス）——古書資料館前史として 第8回

前号では、古書資料館の文庫と岩瀬志妙寄贈本について述べました。今号では、この岩瀬寄贈本について、もう少し詳しく見ていきたいと思えます。

まず、新たな情報があるので紹介します。今年1月末に、学内の研究室より図書館に文書箱約20箱分の古書資料が運び込まれ、図書館で1点1点資料の経歴や状態を確認しました。その結果、A本51部とD本1部の計143冊が確認され、古書資料館に戻されました。そのA本の中には、岩瀬寄贈本が3部5冊含まれていました。そのため、前号で報告した岩瀬寄贈本の現存数は、142部597冊に訂正されます。

岩瀬志妙寄贈本について（1）

〈蔵書の傾向〉

今号の4～5頁に、現存する岩瀬寄贈本の簡易リストをA01～A66まで掲載しました（続きは次号掲載）。通信4号でも述べましたが、A01からA69までの分類は以下の通りで、すべて仏教書です。

A01～09	日蓮宗	A30	浄土宗	A61～69	南都六集 他
A11～19	天台宗	A40	浄土真宗		
A20	真言宗	A50	禅宗		

A66以降には仏教書以外の分類もありますが、現存する岩瀬寄贈本は仏教書のみです。岩瀬氏が寄贈したのは、日蓮宗の法受山妙厳寺（千葉県夷隅郡大多喜町）の蔵書です。寺院に、仏教書以外の蔵書がまったくないわけではないでしょうが、仏教書が多くなるのは当然でしょう。

仏教書ばかりだからといって、岩瀬寄贈本が仏教を研究する人たち以外に価値がないかということ、そんなことはありません。簡易リストには、刊記や奥付の年号が記載してあります。その年代を見てもらうと、寛永（1624～1644）から明暦（1655～1658）といった、17世紀中ごろのものが多く見られます。全体的に古めの版本が多いと言えるでしょう。このような刊記や奥付の情報は、出版文化の研究においても有益なはずです。ちなみに、岩瀬寄贈本に写本はほとんどありません。

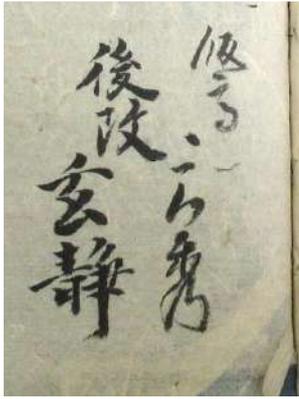
〈飯高玄秀〉

これらの蔵書には、所持者の書入れが多く見られます。中でも多いのが、「飯高玄秀」という墨書きで、30部以上の本に確認できます。「飯高」というのは、日蓮宗の僧の学校である飯高檀林のことで、「玄秀」は字でしょう。岩瀬寄贈本の中には、他にも飯高檀林で学んだ僧の旧蔵書が複数あるようです。たとえば、『本迹決疑抄』（A04/46）には、「妙雲山法輪寺学徒／瑞感之」という書入れがあります。妙雲山法輪寺は、飯高檀林が置かれた飯高寺の別称です。

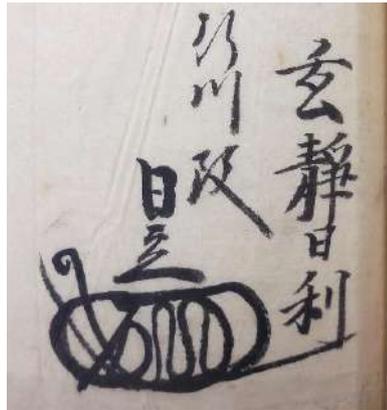
「玄秀」の書入れがあるものの中には、「飯高玄秀／後改玄静」や、「玄静日利／行川改 日立（花押）」というように、玄秀以外の名が書かれたものがありますが、これらは同一人物ではないでしょうか。つまり、玄秀・玄静日利・行川日立の順に名を改めた、ということです。この条件に合いそうな人物に、「行川玄静日立」がいます¹。日立は、麻布真性寺の住職だった境智院日苗（1815年、73歳没）の師とされています。日苗の字は玄秀ですが²、これは偶然ではないでしょう。推測ではありますが、日立が以前に自分で用いていた字を与えたと考えれば、つじつまは合います。

日立の旧蔵書が岩瀬寄贈本の中にあることについても考えてみましょう。行川日立という呼称から、日立は千葉県夷隅郡夷隅町行川の妙泉寺39世だった信解院日立（1772年没）である可能性があります³。妙泉寺は、岩瀬氏が住職を務めた妙厳寺と同じく千葉県夷隅郡に所在したため、両寺の交流の中で、日立の蔵書が妙泉寺から妙厳寺へと移ったのかもしれない。あるいは、岩瀬氏が図書館に蔵書を寄贈する際に、妙厳寺のものだけでなく、妙泉寺のものも代表して寄贈した。もしくは、日立が妙泉寺に入る前に妙厳寺にいた時期があった、などの理由がすぐに思いつくところです。

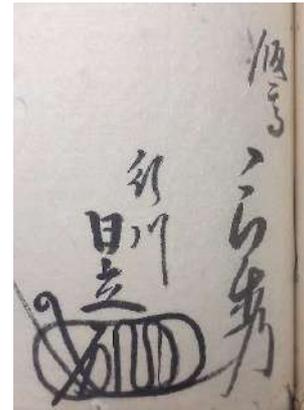
ここまで、推測に推測を重ねていますが、今後、何らかのヒントとなる書入れが岩瀬寄贈本の中から見つかるかもしれません。



A12/4 『涅槃経疏』
「飯高玄秀／後改玄静」
(第1冊裏見返し)



A04/118 『鷹峰群譚』
「玄静日利／行川 改日立(花押)」
(第5冊裏見返し)



A04/333 『学海余滴』
「飯高玄秀／行川日立(花押)」
(第10冊裏見返し)

〈玄首日祐〉

この他、気になる人物の書入れに「玄首」があります。「玄首」の下には、「日／祐」という印が押されており、今のところ、似たデザインのもの三種類確認しています。この書入れと印は、寿量院日祐(1610～1664)のものと考えられます。日祐は日遠に師事し、飯高檀林の13世を務めた人物です。岩瀬寄贈本にある『片簡録』(A12/466)は、この日祐の著作です。

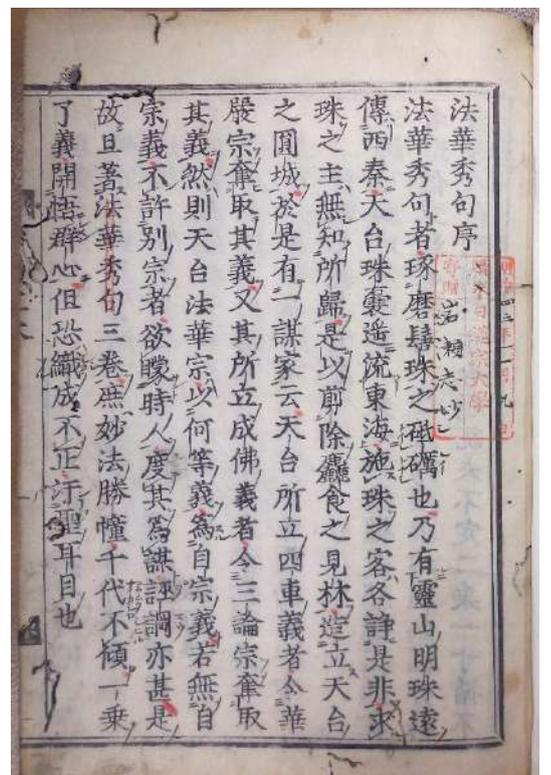
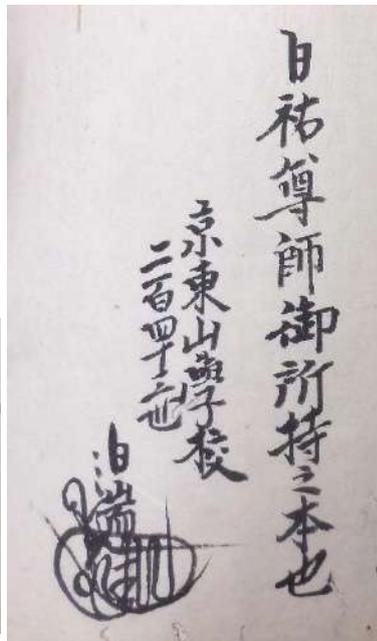
「玄首」を寿量院日祐と判断する根拠としては、日祐の字が玄首である点と、『法華秀句』(A12/310)に「日祐尊師御所持之本也／京東山学校／二百四十三世日遄(花押)」という書入れがある点です。この『法華秀句』には、第2～5冊に「玄首」の書入れと「日／祐」の印が押されています。なお、「京東山学校」というのは、^{みょうけいざんぜんせいじ}妙慧山善正寺(京都市左京区岡崎)に置かれた東山檀林のことで、「日遄」はその243世だった常辰院日遄だと考えられます⁴。



A20/59 『文鏡秘府論』第1冊裏見返し
印「日／祐」(3.5×3.3 cm)



A12/310 『法華秀句』
左: 印「日／祐」(3.0×3.0 cm) 第5冊裏見返し
中: 印「日／祐」(2.9×3.0 cm) 第2冊裏見返し
右: 日遄の識語(第1冊裏見返し)



A12/310 『法華秀句』序

* 「日／祐」の印には上記の三種を確認。

「玄首」の書入れ、もしくは「日祐」の印が押された蔵書は、今号のリスト掲載分では『法華秀句』(A12/310)、『文鏡秘府論』(A20/59)、『頓悟入道要門論』(A50/38)、『禅宗永嘉集』(A50/41)の4部、次回掲載分では、今のところ『護法論』(A73/121)と『説法明眼論端書』(A78/86)の2部が確認できています。この内、刊年がない『法華秀句』と『文鏡秘府論』以外は、日祐没年の1664年以前に刊行されたものです。刊年がない二つにしても、1664年は降らないと考えられます。特に、『法華秀句』は古活字本なので、元和・寛永(1615～1644)頃の刊行でしょう。日祐の旧蔵書が岩瀬寄贈本中に含まれた経緯は不明ですが、上記の『禅宗永嘉集』『護法論』『説法明眼論端書』には「飯高玄秀」の書入れも見られます。断定はできませんが、これも玄静日立が関係しているのかもしれませんが。

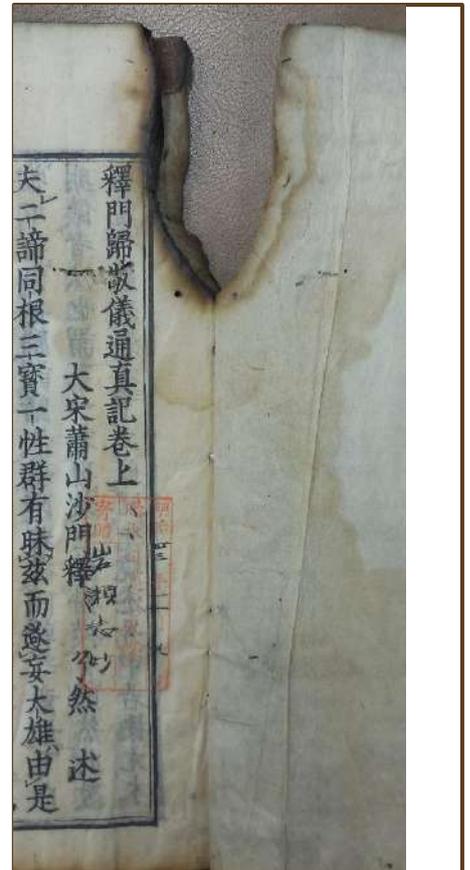
〈火災の痕跡〉

岩瀬寄贈本は、大正5年(1916)の大学の火災によって半数以上が消失したと、前号で述べました。現存する岩瀬寄贈本を見ていくと、表紙が黒ずんでいるものや、焼け跡があるものがいくつか確認できます。その内、特に大きな焼け跡があるのが、『釈門帰敬儀通真記』(A66/44)です。この本は3巻3冊ですが、第一冊目の表面は黒ずんでおり、右上は、右図のように焦げています。また、よく見ると、広範囲にわたって染みがあることも分かるでしょう。おそらく、火を消すために水をかけたのではないのでしょうか。

焼け跡は一冊目にしかありませんが、全体的に状態はよくありません。火に焼かれ、水をかけたのであれば当然です。しかし、水で火を消さなければ、この本は今存在していなかったでしょう。なお、この本は、今後、補修に出される可能性があります。

火災時に、蔵書がどのように置かれていたかは分かりませんが、おそらく、平積みにはされていたはずですが、一冊目の表紙に黒ずみや焼け跡があるのは、そこに火の粉などが飛んできたためだと考えるのが自然でしょう。

大正5年の火災により校舎のほとんどは燃えてしまっており、その痕跡をとどめる建物は現在何もありません。そういう意味でも、この『釈門帰敬儀通真記』は当時を物語る資料であり、立正大学にとって貴重なものと言えるのではないのでしょうか。



『釈門帰敬儀通真記』
(A66/44) 第1冊巻頭

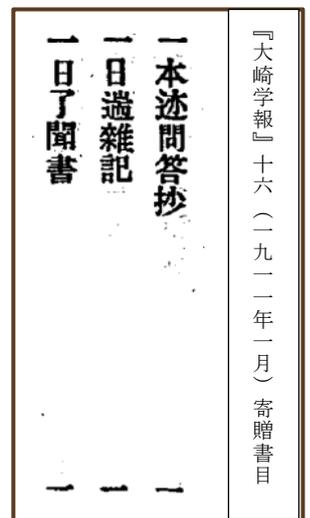
〈失われた本〉

『釈門帰敬儀通真記』は幸運にも焼失を免れましたが、当然失われた本もあります。焼失した本にどのようなものがあったのかは、前号でも紹介したように、『大崎学報』16号などに掲載されたリストによって知ることが出来ます。

焼失したと考えられる本の中に、「日遄雑記」があります。現在、古書資料館にこの書名の本は確認できません。「日遄雑記」は、文字通り日遄の雑記帳でしょう。手書きの雑記帳だとすれば、わざわざ写しを作ったり、出版したりすることもなかったはずですが。そうなると、この本の中身は永久に失われたこととなります。

この日遄は、先に日祐の旧蔵書のところで紹介した、常辰院日遄の可能性がありますが。さらに、岩瀬氏が住職を務めていた妙厳寺の住職を調べて見ると、24世に同名の人物がいたことが分かります⁵。岩瀬寄贈本が妙厳寺の蔵書を寄贈したものとすれば、そこに妙厳寺の住職の雑記帳があったとしてもおかしくはありません。

失われたものはもう取り返しがつきませんが、今後、蔵書が失われないようにするの、図書館の役割の一つでしょう。



〈岩瀬志妙寄贈本 簡易リスト①〉

- A02/5 御書見聞 17巻(存11巻)11冊 / [日朝述]。別寄贈本と取り合わせ。
- A03/9 法華経随音句 2巻2冊 / 日遠記。板屋宗胡、寛永20年(1643)。
- A03/14 妙法蓮華経大意 2巻1冊 / 日遠述。[京]、浅野久兵衛、天和2年(1682)。
- A03/15 妙法蓮華経大意 2巻1冊 / 日遠述。刊記は「開板」のみ。
- A03/17 妙法蓮華経大意 2巻1冊 / 日遠述。[京]、中野五郎左衛門、慶安元年(1648)。
- A04/44 弘経用心記 5巻2冊 / 日朝記。[出版者不明]、慶安元年(1648)。
- A04/46 本迹決疑抄 2巻2冊 / 日澄記。無刊記。
- A04/49 助頭唱導文集 5巻5冊 / 日澄撰集。京、堤六左衛門、寛永20年(1643)。
- A04/53 見聞愚案記 24巻24冊 / 日重記。[出版者不明]、万治元年(1658)。
- A04/118 鷹峰群譚 5巻5冊 / 日達筆。京、並河甚三郎・八木八郎兵衛、享保18年(1733)跋。
- A04/192 窓燈塵壺 1冊 / 日諦輯録。京、山岡勘右衛門・栗山弥兵衛、享保15(1730)。鳴滝三宝寺蔵版。
- A04/333 学海余滴 10巻10冊 / 日達編集。京、村上勘兵衛、寛保元年(1741)。
- A04/368 法華神道秘訣 4巻2冊 / 日澄記。藤田宗継、[出版年不明]。
- A04/440 本迹問答鈔 3巻(存1巻)1冊。無刊記。別寄贈本と取り合わせ。
- A05/42 中正論或問 3巻5冊 / 日題[著]。京、近藤氏治重・小林半兵衛、元禄13年(1700)。
- A05/106 金剛槌論 1冊 / 鳳潭。[京]、河南四郎右衛門・中村治郎兵衛、[出版年不明]。
- A05/140 規矩準繩録 1冊 / 竜華沙門某述。写本。享保15年(1730)序。
- A05/200 決膜明眼論 4冊 / 日達記。京、並河甚三郎、享保21年(1736)。
- A11/14 天台三大部補注条箇 2巻2冊。無刊記。別寄贈の『天台三大部補注』と取り合わせ。
- A11/38 読教記 20巻(存19巻)11冊 / (宋)法照[撰]。無刊記。別寄贈本と取り合わせ。
- A11/101 妙経文句私志記 14巻14冊 / (唐)智雲撰。[京]、中野五郎左衛門、承応4年(1655)。
- A11/104 法華疏私記 10巻10冊 / 証真撰。無刊記。取り合わせ本。
- A11/111 法華文句随問記 10巻13冊 / 日遠記。[京]、八尾甚四郎友春[他3肆]、寛文9年(1669)。
- A11/113 法華文句記講録 50巻(存48巻)24冊 / 光謙撰。[京]、長谷川一郎兵衛義陳・中野宗左衛門行延・佐野伊兵衛利有、享保5年(1720)。
- A11/158 止観義例 1冊 / (唐)湛然述。無刊記。
- A11/159 止観義例 1冊 / (唐)湛然述。無刊記。
- A11/164 止観義例纂要 6巻附条箇7冊。[出版者不明]、天和2年(1682)。
- A11/209 観世音玄義 1冊 / (隋)頂法師〈観頂〉記。[京]、中村五兵衛、慶安元年(1648)。
- A11/253 金剛経疏 1冊 / (隋)智者大師疏。[京]、中野是誰、明暦4年(1658)。
- A11/264 維摩経略疏 10巻10冊 / (隋)智者大師説；(唐)湛然略。[京]、石黒庄大夫、承応元年(1652)。
- A11/304 四念処 4巻2冊 / (隋)智者大師説。京、堤六左衛門、正保4年(1647)。
- A11/379 玄籤摺积 存2巻2冊。無刊記。
- A11/452 四念処 4巻2冊 / (隋)智者大師説。[京]、浅野久兵衛、延宝8年(1680)。
- A12/3 南本大般涅槃経会疏 36巻(欠巻1・2本・2末)33冊。京、秋田屋平左衛門、明暦3年(1657)。
- A12/4 涅槃経疏 15冊 / (隋)頂法師〈観頂〉撰；(唐)湛然述。京、山本平左衛門常知、寛文10年(1671)。
- A12/83 五百問論 3巻3冊 / (唐)湛然述。無刊記。
- A12/109 顕性録要文附追加 5巻2冊。[京]、中野五郎左衛門、明暦4年(1658)。
- A12/169 四明十義書 2巻2冊。[江戸]、中野孫三郎・村田勝五郎、延宝9年(1681)。取り合わせ本。
- A12/310 法華秀句 3巻5冊 / 最澄撰。古活字本。無刊記。
- A12/313 法華秀句 3巻5冊 / 最澄撰。[京]、中野五郎左衛門、承応2年(1655)。
- A12/346 三観義私記 1巻2冊 / 都辮作。無刊記。
- A12/408 境観遺編 1冊 / 玉秀誌。京、村上勘兵衛、貞享3年(1686)。
- A12/431 拾要集 1冊。無刊記。
- A12/442 宗要集智晃抄 10巻10冊。京、林甚右衛門尉、承応2年(1653)。

- A12/446 根源抄 3巻3冊。京、庄右衛門、慶安元年(1648)。
A12/447 台宗教観撮要論 1冊 京、栗山宇兵衛、宝永6年(1709)。
 A12/466 片簡録 1冊 / 寿量院日祐述。寛文5年(1665)跋。
A12/472 掌中記 1冊 / 日賢記。京、山屋治右衛門、万治2年(1659)。
 A12/481 諸部私訣 2巻1冊。京、栗山宇兵衛、元禄12年(1669)。
 A13/1 宗大事口伝抄 17巻17冊 / 等海集。[京]、秋田屋平左衛門、慶安4年(1651)。
A15/5 頭戒論 3巻3冊 / 最澄撰。[京]、中野宗左衛門、正保3年(1646)。
 A15/13 伝述一心戒文 3巻3冊 / 光定撰。[京]、長谷川市郎兵衛、寛文4年(1664)。
 A20/16 大毗盧遮那成仏神変加持経義釈演密鈔 10巻(存3巻)3冊 / (遼)覚苑撰。[京]、村上勘兵衛、万治元年(1658)。
 A20/32 辯頭密二教論 2巻1冊 / 空海撰。単葉装(改装)。『十巻章』の内か。
 A20/59 文鏡秘府論 6巻3冊 / 遍照金剛(空海)撰。無刊記。
 A20/70 蘇悉地羯羅経略疏 7巻10冊 / 慈覚(円仁)疏稿。無刊記。
A20/80 大灌頂光真言経鈔 1冊 / 亮汰述, 科註闕名。前川茂右衛門尉、寛文12年(1672)跋。
 A20/82 光明真言経鈔 2巻2冊 / 亮汰述, 科註闕名。前川茂右衛門、寛文7年(1667)跋。
 A20/86 光明真言経鈔箋解 3巻3冊 / 英嶽[著]。前川茂右衛門、寛文9年(1669)。
 A20/127 瑜祇経拾古鈔 3巻(存2巻)2冊 / [頼瑜述]。[京]、村上勘兵衛、万治元年(1658)。
 A20/148 高野雑筆集 2巻2冊。[京]、中野宗左衛門、延宝9年(1681)。
 A20/165 大威怒烏芻澀摩儀軌(外八篇) / (唐)不空訳 1冊。[黄檗版]。杜八(〜十)。
 A30/6 安楽集 2巻2冊 / (唐)釈道綽撰。無刊記。
A30/10 往生礼讃偈 1冊 / (唐)善導集記。無刊記。
A30/15 依観経等明般舟三昧行道往生讃 1冊 / (唐)善導撰。京、丁子屋九郎右衛門、明暦2年(1656)。
 A30/19 転経行道願往生浄土法事讃 2巻2冊 / (唐)善導撰。無刊記。
 A30/82 摧邪輪莊嚴記 1冊 / 高辨[著]。寛永3年(1626)跋。
 A30/87 念仏往生明導筭 2巻2冊 / 僧濬鳳潭撰。京、中村治郎兵衛[他4肆]、享保15年(1730)。
 A30/167 於一向専修宗選択集中摧邪輪 3巻(存2巻)2冊 / 高辨[著]。無刊記。
A50/5 鎮州臨濟恵照禅師語録 1冊 / (唐)恵然集。[出版者不明]、寛永9年(1632)。
 A50/38 頓悟入道要門論 2巻2冊 / (唐)慧海撰。[京]、中野氏是誰、正保3年(1646)。
A50/41 禅宗永嘉集 2巻1冊 / (唐)玄覺撰, (宋)行靖注。[京]、西村又左衛門、寛永11年(1634)。
A62/5 阿毘達磨俱舍論 30巻15冊 / 世親造, (唐)玄奘。無刊記。
 A63/51 成唯識論了義燈 7巻(存巻第7末)1冊 / [(唐)恵沼撰]。[京]、水田甚左衛門、寛文7年(1667)。
 別寄贈本と取り合わせ。
 A63/96 百法問答抄 9巻9冊。京、堤六左衛門、慶安元年(1648)。
 A63/123 勧誘同法記 1冊 / 解脱(貞慶)造。[京]、堤六左衛門、慶安2年(1649)。
 A63/126 法相宗名目(法相宗名目隨身鈔) 3巻2冊 / 政祝集。京、[出版者不明]、万治2年(1659)。
 A65/3 華嚴一乗教分記 3巻1冊 / (唐)法蔵撰。京、村上勘兵衛、慶安4年(1651)。
 A65/8 華嚴五教章科分 3巻1冊 / 智城図。[京]、中野氏是誰、万治3年(1660)。
A65/54 圭峰禅師原人論発微録 1冊 / (宋)浄源。[京]、中野氏小左衛門、明暦元年(1655)。
 A65/56 華嚴原人論解 3巻3冊 / (元)円覚述。無刊記。
A66/32 四分律比丘尼鈔 3巻6冊 / (唐)道宣述。京、吉兵衛、貞享元年(1684)跋。
A66/33 四分刪定比丘尼戒本 1冊 / (宋)元照重定。[京]、吉兵衛、天和3年(1683)。
A66/40 四分律蔵大小持戒捷度略釈 1冊 / 仏陀耶舎・竺仏念訳, (明)智旭際明釈。京、千種市兵衛・浅野兵衛、貞享元年(1684)。
 A66/44 釈門帰敬儀通真記 3巻3冊 / (宋)了然述。京、橋屋仁右衛門、明暦元年(1655)。
 A66/59 南山律宗教観名目 2巻2冊 / 聖臯集。[京]、浅野久兵衛重惟、元禄9年(1696)。

*基本的に旧漢字・異体字は通行の字体へと変更。特に記載のないものはすべて袋綴の整版本。別の寄贈本と取り合わせられている場合、岩瀬寄贈本の存巻を記載。旧分類番号に下線のあるものは「玄秀」の書入れのあるもの。

注

1. 中道院蔵「法類靈簿」の「飯高文能 麻布真性寺歴／行川玄静日立弟子／七十三化／境智院日苗聖／文化十二乙亥十一月／字玄秀」による。大田区史編さん委員会編『大田区史 (資料編) 寺社1』(東京都大田区、1981年)、514頁(／は引用者による)。
2. 同 514 頁。
3. 日立の没年は、日蓮宗寺院大鑑編集委員会編『日蓮宗寺院大鑑』(池上本門寺、1981年)の227頁を参照。
4. 同 1226 頁。
5. 同 236 頁。



立正大学古書資料館専門員 小此木敏明

古書資料館講座 受講生インタビュー

2018年5月～11月開催の古書資料館連続講座「はじめての変体仮名」の受講生のお2人に、講座への応募の動機や感想を伺いました！

仲三河 様



—なぜ講座に応募しようと思われたのですか？

自宅にこもりがちになっていて、「外に出たい」と思っていたときに、「広報しながわ」で講座の案内を見つけて、「これだ！」と思い、申しました。無料というところも魅力的でした。

—講座を受講された感想を教えてください

講座は難しいけれども楽しく、「学ぶ」ということが生きる原動力になりました。頑張る勇気を与えてもらいました。勉強を続けたいです。

—古書を手に取り触れてみて、いかがでしたか？

これまで古い資料を手取る機会はありませんでしたが、実際手に取り、昔の人はこんなに字が上手だったのだと感心しました。字が好きなので、今後自分でも仮名を書いてみたいと思いました。

—古書資料館の印象を教えてください

こんな図書館があるのか。白と黒の世界。すべての帙に墨で統一の書体のタイトルが書かれていることに驚きました。書家の方に依頼していると後から伺いました。

—実際に講座を受講されて、どうでしたか？

歌川広重の幻想的でユニークな作品、名所江戸百景「王子装束ゑの木大晦日の狐火」に元々興味がありました。講座でも、硬い話ではなく、狐が登場する『安鶴在世記』をテキストとして解説できて楽しかったです。

—講座を受講されて、何を得ましたか？

変体仮名の世界は奥深いということです。「尔」「奈」「不」について最初は同じに見えました。ところが辞書で詳しく見ると、違う。辞書を見ながら、勉強して、深い世界だなと思いました。

鬼頭 様





表紙資料紹介

えほんのやまぐさ 5巻2冊 / たちばなやすくに 橘保国 画図 A97/10

宝暦5年(1755) [刊]。大阪、河内屋喜兵衛・同和助、[文化3年(1806)以降印]。

『絵本野山草』とも。著者の橘保国(1717~1792)は守国の子。父に画法を学び、法眼に叙せられた絵師。表紙の図(巻1、3丁裏・4丁表)にある熊谷草と敦盛草は、源平合戦の熊谷直実と、直実に討たれた平敦盛の名にちなんだもの。花の形が武士の母衣に似ている所からの命名。



立正大学古書資料館通信

第8号

平成31年3月31日発行

編集・発行 立正大学図書館 品川学術情報課

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

TEL: 03-3492-6615

HP: <http://www.ris.ac.jp/library/>